

Ayagumo

Anjo Gakuen Highschool Newsletter

彩雲

2025
vol.133
発行日 / 2月15日



卒業生への
メッセージ

Contents

- 2 巻頭言
- 3 卒業生へのメッセージ
- 4 響き合うまちと学校
- 5 創作ミュージカル
- 6 国際交流
- 7-8 学校行事
- 9 探究
- 10 生徒会活動報告
教科セミナー
- 11-15 部活動レポート

巻頭言

学校 あの不思議な場所

茨木のり子

午後の教室に夕日さし
頁^{ページ}がやわらかな薔薇いろに染った

時間はゆったり流れていた

時間は緊密にゆったり流れていた

青春というときに

ゆくりなく思い出されるのは 午後の教室

やわらかな薔薇いろに染った教科書の頁

学校 あの不思議な場所

校門をくぐりながら蛇蝎^{だかつ}のごとく嫌ったところ

飛びたつと

森のようになつかしいところ

今日もあまたの小さな森で

水仙のような友情が生れ匂ったりしているだろう

飛びたつ者たち

自由の小鳥になれ

自由の猛禽になれ

「猛禽」 ワシやタカなどの荒々しい肉食鳥

学校 あの不思議な場所 ～卒業する皆さんへ～

西尾の詩人 茨木のり子の詩「学校 あの不思議な場所」からの抜粋です。

傾いた夕日が教室に差し込み、そのやわらかな光が教科書のページを赤く染める、その美しい情景は
あたかも青春の美しさを象徴するかのようです。

皆さんにとって、学校で多くの時間を過ごした場は教室でした。あるいは、部の活動場所でした。しかし授業にしても練習にしても、それは単に「楽しい」だけの時間ではなかったはずです。それでも今、卒業を前にして自分の高校生活を振り返ってみると、この3年の間は実に濃厚で緊密な時間が流れていたことに気づかされるのではないのでしょうか。恐らくそれは、皆さんがその時その時を純粋にひたむきに生きてきたからだと思います。

蛇蝎^{だかつ}(ヘビやサソリ)とまでは言いませんが、「学校が嫌い」という日があったかもしれません。それでも学校というところは、そこを飛びたってしまうと懐かしさや切なさを伴って思い起こされる、そんな不思議な場所です。

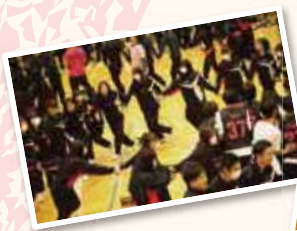
私は安城学園にきた2年の間、いつもきらきらと輝いている皆さんの姿を見て、憧れや尊敬に近い思いを抱いていました。母校を巣立つ今、どうぞ 自由の鳥 となって、この広い世界で存分に羽ばたいてください。私たちはここ安城学園というふるさとの森にいて、これからもずっと皆さんの活躍を見守り応援しています。

安城学園高等学校
校長 熊谷 誠人



卒業生・保護者の皆様へ

学年主任より3年間を振り返るとともに感謝のメッセージ



生徒・教員・保護者が一体となって 作り上げた3年間



3年学年主任 和田 圭吾

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様が立派に成長され高等学校卒業という日を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

皆さんが入学した時、先輩たちとカリキュラムが大きく違う事に戸惑ったと思います。ちょうどカリキュラムが大きく変わる時期だったため、同じコースであっても先輩からの授業の情報はほとんど参考にならず、「えっ? そんな授業あるの?」「テストの科目数多くない?」などの会話が先輩達と交わされていたことが心に残っています。

学校生活の8割は授業です。その大切な授業を先生達も新しいカリキュラムに対応するために試行錯誤しながら準備してきました。もともと存在した創造活動や弁論の授業に加え、探究を含めたいくつかの授業ではただ教える教師、教わる生徒の関係だけでなく、お互い考え、意見を出し合い、皆さんと協力して1つずつ創ってきた時間だったという実感があります。その経験により単なる師弟関係ではなく、立場を超えてこの学年という集団をつくる仲間だという共通認識を全員が持つことが出来ました。その仲間意識はクラス活動・学年活動でも発揮され、学園祭をはじめ学年レクリエーションなど様々な行事において先生と生徒が一緒になって楽しんでいる姿をいつでもどこでも見ることが出来ました。その仲間意識がこの学年の一番の宝物だと思っています。

1年生ではまだまだコロナの影響が残る中、安城学園の行事の活発さに戸惑っている皆さんを見た時は、「落ち着いた学年だと思うけれど、少し慎重すぎるかな。」と思っていました。今から考えると自分が恥ずかしい。皆さんは思慮深く行動していただけで、若者らしい熱いエネルギーをしっかりと持っていました。

1年生の11月の学年レクリエーション。「最後にマイムマイムを踊ろう!」と案が出た時、私の頭に最初に浮かんだのは「この学年で盛り上がるか?大丈夫か?」でした。しかし、音楽が流れ始めたら大盛り上がり。この企画を考え運営した代表者会の皆さんの慧眼に私は度肝を抜かれました。あの瞬間、私のこの学年はエネルギーに乏しい集団かもしれないという危惧は吹っ飛んだと言ってよいでしょう。先生も生徒も一緒になって最高の笑顔で踊れたマイムマイムはこの学年の名物になりました。そんな熱いエネルギーを秘めていた皆さんが部活動に勉強に全力でぶつかり成長していく姿はとてもまぶしかったです。本当に皆さんは熱いエネルギーを燃やして3年間大いに成長してくれたと誇りに思っています。

それでいてそのエネルギーに翻弄されることなく、しっかりとコントロールして気が緩みすぎるという事が無かったことも感じています。学年集会では500人近くの集団でありながら時間通り

に集合し、しっかりと顔を上げて人の話を聞く。仲間の誰かが前に立った時、一斉に皆さんの集中がその人に向き、話を聞く態勢が誰かに言われる前に自然とできる。皆さんにとっては当たり前なのかもしれませんが、私は28年間の教員生活の中でそのケジメを3年間維持した学年を知りません。集団の中にいたら気が付かなかったかもしれませんが、皆さんは外から見ると実に素晴らしい集団だったのです。何気ない毎日の積み重ねの中でお互い礼儀を保ち、先生・生徒の垣根を超えて仲間意識を共有したこの学年の一員であったことに本当に喜びを感じています。

私が最も価値があると思っていた事は「なにも変わらない普通の日」です。行事の多い安城学園ですが7割以上の日は普通の50分6時間授業です。行事があれば準備をします。試験があれば緊張します。しかし何もない日はリラックスした穏やかな自然体の皆さんです。その穏やかなこの学年の空気感が私はたまらなく好きでした。日常を当たり前に平和に1日過ごす。簡単そうに見えてとても難しい事です。しかし、集団としてのこの学年にはいつでも温かく他者を受け入れる余裕が感じられました。常に私が胸を張って誇れる皆さんでした。

もちろん、個人で見れば事件の起こらない日はありません。青春時代特有の悩み、怒り、泣き、苦しみと様々な問題が起こりました。しかし、集団としてのこの学年はそんな皆さんを一度穏やかに包み込みました。そんな穏やかさに癒され落ち着いた後はこれを成長の機会ととらえ、前向きにエネルギーに問題と向き合う皆さんがいました。生徒・先生・保護者の方がお互い協力してひとつずつ問題を解きほぐし、解決に向かうしなやかな姿に精神的な強さを感じて頼もしく思いました。そんな1日1日を大切に創り上げてきた3年間の集大成がここにあります。

本日、卒業を迎えた皆さんはこれからそれぞれの道を歩み始めます。仲間だった皆さんが全員この安城学園に集まる日はもうありません。ですが、安城学園は変わらずこの地にあります。皆さんと一緒にこの学年を創ってくれた先生方はいつでもここに居ます。皆さんの背中を見て真心・努力・奉仕・感謝の伝統を受け継いだ後輩たちも学んでいます。安城学園の3年間に懐かしさを感じたらいつでも顔を出してください。安城学園は何年たっても変わらず皆さんを迎え入れるでしょう。

生徒の皆さん、保護者の皆さんと共に喜びも苦しみも経験し、充実した3年間を過ごすことが出来ました。3年間のご理解ご協力ありがとうございました。皆さんと出会えて、安城学園というステージで共に成長できた奇跡に感謝します。

ANJO GAKUEN 響き合う まちと学校

吹奏楽部

碧南親子ふれ合いコンサート 2024年12月9日 碧南市民会館

3年10組 金原 結那(碧南南)

12月9日に碧南市文化会館にて行われた碧南親子ふれあいコンサートにお招き頂きました。私の地元で私が安城学園を知るきっかけになったコンサートに今度は安城学園の生徒として参加することができて、とても感慨深い体験でした。合同演奏も、合わせ練習があまり出来なかった中の本番でしたが、老若男女関係なく音楽で繋がることの楽しさを感じることが出来ました。



吹奏楽フェスティバル 2024年12月22日 刈谷市文化総合センター



3年6組 岩田 心渚(犬山東部)

12月22日に刈谷市文化総合センターで行われた吹奏楽フェスティバルに参加しました。プロの方の演奏や西三河地区の高校の演奏を聴いたり、安城東高校さんと合同演奏をすることができて、とても勉強になりました。今年度は地域での演奏会が多かったため、音楽を通して地域の関わりができて楽しかったです。これからも地域との関わりを大切に頑張っていきたいと思います。

弦楽部

第30回定期演奏会 2025年2月9日 マツパホール
弦楽部定期演奏会に向けて

3年3組 中澤 天羅(西尾)

1年前、先輩方が卒業し不安を感じながらも、新しい弦楽部がスタートしました。

今年度は、昨年度に引き続き行われた東北演奏旅行をはじめ、親子でヴァイオリン体験&コンサート、安城音楽のある一日・まちなかコンサートなど、多くの演奏会の機会をいただきました。音楽を通して、地域の方々や弦楽部を繋ぐ、たくさんのお出合いに恵まれた一年でした。

1年間一生懸命に練習したカプリオール組曲で結果を残せず、悔しい思いもしましたが、自棄にならず演奏を続けられたのは、家族や先生の大きな支え、沢山のお客さまからの温かい言葉や、応援があったからです。

今回の定期演奏会は、私たちの1年間の集大成です。また、3年生にとって3年間の色々な経験や出会い、思い出の詰まった演奏会になります。今まで支えてくださった全ての方への感謝を込め、私たちの音楽を届けたいと思います。皆様ぜひ、第30回弦楽部定期演奏会にお越しください。



合唱部

第20回定期演奏会 2024年12月23日 アンフォーレ
定期演奏会を終えて

1年3組 ドグエン サクラ(平坂)

今回の定期演奏会は、学園恋愛ものというテーマをもとに曲の導入劇やお客様にメッセージカードを手渡しする演出など、来てくださったお客さんがわくわく楽しんでいただけるようなステージにしました。最近の人気曲から懐かしのヒットソングまで幅広いジャンルで合唱の魅力をお伝えできたかと思います。聴いてくださった皆様が幸せや感動を感じてくださったり、少しでも合唱に興味を持ったりしていただけたらとても嬉しく思います。

本番に向けて練習に取り組みながら、必要な準備も一人ひとりが試行錯誤をして積極的に行動したことで大きく成長することができました。培った経験を生かしてこれからも、聞いてくださる方々の心を動かせるような合唱作りを目標に楽しく活動していきます。



第37次創作ミュージカル

希望の汽笛

第37次創作ミュージカル「希望の汽笛」

第37次 創作ミュージカル実行委員長 2年4組 市野 国義(安城南)

1学期から創作委員会を立ち上げ、12月にキャスト・スタッフからなる実行委員会の活動がスタートしました。2月の卒業フェスティバルで3年生の皆さんに、4月の新入生歓迎会・一般公演では、新入生や在校生・保護者・市民の皆さんに見ていただくため、練習や作業を頑張っています。高さ7m、幅13mの巨大な背景画(書き割り)も完成しました。

都会にあこがれる主人公と、豊かなつながりの中で生きる町の人たち…。さまざまな人々が行き交う「駅」を舞台に、物語が展開していきます。ミュージカルを通して、「幸せな未来」とは何かを考えるきっかけになれば、と思っています。

ぜひ4月の一般公演に、皆さんでお越しください。お待ちしております。



考え続けるんだ、『賢い』ってこと - 創作ミュージカル「最終公演」へ -

創作ミュージカル実行委員会顧問 山盛 洋介

第37次 創作ミュージカル「希望の汽笛」の上演に向け、現在、キャスト・スタッフ総勢60名が日々練習・作業に取り組んでいます。

安城学園らしいといえるこのミュージカルの取り組みは、1989年に生まれました。

創作ミュージカルの誕生前夜、1988年の安城学園高校では、生徒アンケートが「この学校に入ってからよかった」という回答は30%を切っていました。自分の存在場所や自分自身に誇りを持てずにいた生徒がたくさんいた時代です。また、学費の公私格差が大きく、傷ついて私学に入学する生徒も多かった状況もありました。自分たちの高校生活に誇りを持ってもらいたい、という思いとともに、果たして生徒たちが持っている「賢さ」に応える教育をしているのだろうか、という思いを持った教員が中心になって、創作ミュージカルが立ち上がりました。カンパをして支えた教員、装置作りに夢中になり「無邪気な大人たち」と呼ばれた教員、作曲した教員、吹奏楽部を指揮した教員、キャスト出演した教員・・・、そして当時の生徒たちの熱意が、第1次「SEVENTEEN」を創り上げました。心を揺さぶるセリフ、舞台上で輝く生徒たちの姿に、教員たち「目からウロコが落ちた!」と言い、職員会議では「新入生や一般の人たちにも見せた方がよい」と次々に意見が出ました。第2次からは、生徒たちも合流し、創作委員会が発足しました。「テーマに現在性があり、舞台を観てくれる人たちに訴えるメッセージを持っていること。歌や踊りを磨き上げる路線ではなく、テーマ討論にこだわろう」と、脚本づくりのための創作委員会にもっとも時間を費やしてきました。



創作委員会では、身の回りのことから時事問題、みんなで話し合いたいこと、興味を持った本や映画の話などの討論を重ねた末に、ようやくテーマにたどり着きます。テーマが決まると、

創作委員会の出した言葉を一つ一つ拾いながら、生徒と教員と一緒に産みの苦しみを味わいながら脚本に紡ぎ上げていきます。私たちが創作ミュージカルを大切にしている理由の一つがこの作業。「言葉」を大切にしています。

今年も、多くの時間をかけて書いた脚本が完成にたどりついたのは冬でした。「素人の集まりに上手・下手はない。キャストに求められるのは、上手さよりも大胆さとひたむきさ。それが全体の緊張感をつくる。」芝居も歌もダンスも未経験というキャストがたくさんいます。装置も衣装も効果もみんな初めての経験です。しかし、参加するのは自由でも、参加したからには責任をもってやり抜かなければならないのが自主活動。時には自分を変え

ることを求められながら、自分の世界を広げ、仲間たちと力を合わせて、ミュージカルをつくってきました。

そのミュージカルの歴史に、今回で幕を下ろすことになりました。4月に行う第37次「希望の汽笛」の一般公演が、最終公演となります。これまで、歴史のレンガを積み上げてきた多くの生徒・先生方や、支えて下さったたくさんの方々へ感謝しながら、最終公演を成功させたいと考えています。

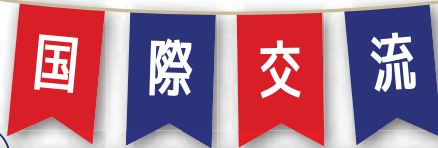
37年間、一貫してきたテーマは「考え続けるんだ、『賢い』ってこと」。ミュージカルの歴史は幕を閉じますが、安城学園の教育づくりにつながる、普遍的な問いだと考えています。そのかたちこそ変わっても、根底にあるテーマは、これからも私たちに教育・学校のあり方を問い続けていくことでしょう。

最終となる一般公演に、ぜひ多くの皆さまにお越しいただけましたら幸いです。

第37次創作ミュージカル「希望の汽笛」一般公演

2025年4月12日(土) 13:30開場 14:00開演
会場: 安城市民会館サルビアホール 入場無料

創作ミュージカル STORY		
第1次	1988年度	SEVENTEEN
第2次	1989年度	ルシファー
第3次	1990年度	ROUGH(ラフ) - さまよう風 -
第4次	1991年度	Moment
第5次	1992年度	Who?
第6次	1993年度	DIRTY - 走れ Endless Street -
第7次	1994年度	Believe - アモ、虹の中へ! -
第8次	1995年度	MY SELF - 我が心のアルクプラス -
第9次	1996年度	ミエナイワタシ - AGAINST WAVES -
第10次	1997年度	ローザンヌ、逢方もない夢
第11次	1998年度	風のシスター - Over The Sea -
第12次	1999年度	WISH - 闇の中で -
第13次	2000年度	はずれ道 - 自由をつかめ! -
第14次	2001年度	一瞬の永遠 - Seize The Days -
第15次	2002年度	STAY GOLD
第16次	2003年度	Pandra
第17次	2004年度	マリスの風 - 荒地をこえて -
第18次	2005年度	RISE - 犬たちの歌 -
第19次	2006年度	One - 風が生まれる場所 -
第20次	2007年度	SEVENTEEN
第21次	2008年度	明日が生まれる場所
第22次	2009年度	Moulin(ムーラン) - 風の町の夢 -
第23次	2010年度	ウソツキヒーロー
第24次	2011年度	アッシュ - 希望の歌 -
第25次	2012年度	エバネの森
第26次	2013年度	笑顔の向こう - 私たちのミュージカル -
第27次	2014年度	3分後の時計
第28次	2015年度	黄金色の明日
第29次	2016年度	STATION - 光の中へ -
第30次	2017年度	街角のブラックボード
第31次	2018年度	Look for... - 未来へかける橋 -
第32次	2019年度	Re:Start - 明日の空へ -
第33次	2020年度	line
第34次	2021年度	約束 - あの鳥からの手紙 -
第35次	2022年度	Forest ALIVE - 届け、森の歌 -
第36次	2023年度	夜明けのスタートライン - da Castagno -
第37次	2024年度	希望の汽笛



フィンランド留学生を受け入れて

国際交流主任 国分 渉悟



4ヶ月間という短い期間でしたが、たくさんの思い出ができました。彼女は学園祭や球技大会といった日本ならではの行事に積極的に参加しました。また、彼女との交流を通じて、フィンランドの文化や習慣について学ぶ機会が増えました。

そして、滞在の成果の一つとして、彼女の日本語力の進歩が挙げられます。日々の会話や授業でのやりとり、そして放課後の交流を通じて、彼女の日本語は驚くほど自然になりました。

今回の留学生受け入れも、私たちにとっても、彼女にとってもかけがえのない経験となりました。このような交流が続くことで、私たちの学校がよりグローバルで開かれた学びの場となることを期待しています。来年度も留学生がくることとなっています。来年度も楽しみです！

Exchange Student From Finland Joins our School

国際交流 Simon Kew先生

Carola Nyman, an 18 year-old exchange from Finland, spent four months during second semester, studying with students at our school. She made a great impression by actively participating in many school events, such as Sports Day and the Culture Festival. She introduced and promoted an interest in Finnish culture to students, while making considerable efforts to study Japanese. She made a lot of friends, as



evidenced by the many tears shed by her classmates on her last day of school. She is now back with her family in Finland, but will be greatly missed! We all look forward to seeing you again, Carola!



英検合格者

2024年度 第1回と第2回英検の結果報告 (合格者数/受験者数)

第1回

英検1級……(1/4名 合格)
準1級……(7/24名 合格)
2級……(11/42名 合格)
準2級……(26/61名 合格)
3級……(51/78名 合格)

第2回

準1級……(7/18名 合格)
2級……(11/38名 合格)
準2級……(17/38名 合格)
3級……(13/17名 合格)

安城学園高校のこだわり



毎年、英検の上位級(準1級や1級)の合格者が増えてきています。本校英語科教員の指導経験が増えてきていることもその理由の一つですが、上位級合格者増の一番の要因は生徒同士が切磋琢磨する土壌ができてきていることだと考えられます。2級に受かった生徒は、先輩や同学年の生徒に触発されて、準1級へ挑戦します。生徒たちは現状に満足することなく、次へ次へと学習を発展していけるようになってきています。来年度以降も楽しみで仕方ありません。

学校行事

球技大会

大会成績

【男子】優勝：3年10組 / 準優勝：3年4組 / 3位：3年5組、商3年1組
【女子】優勝：3年11組 / 準優勝：商1年1組 / 3位：3年2組、3年3組

男子 優勝クラス

3年10組 鶴田 健人(明祥)

僕たち10組は1か月前から練習を始めていました。緊張していましたが、優勝したらご褒美待っているよと言ってくれたので、クラス全員で盛り上がって球技大会に臨みました。本番では、優勝候補と言われていた3年8組への勝利をきっかけに決勝まで勝ち進むことができました。決勝ではこれまで試合をしてきた3年生の他クラスの大きな応援も相まって優勝でき、その場にいる全員で喜びを分かち合うことができました。

この優勝をきっかけにadvanceの10組は勉強も運動もできるクラスと証明することができました！この優勝は僕たちにとってとても価値のある思い出と経験になりました。



女子 優勝クラス

3年11組 坂口 蓬葵)



今年は体育大会が中止となってしまいました。そのため球技大会が高校生活最後のスポーツ行事になり、より熱の入った大会になりました。私たちは、担任の岡山先生の熱血指導に耐え、体育担当の早川先生にバレーの練習がしたいと何度もお願いし、ご迷惑をかけましたが、見事に全校優勝することができました。私は、練習でサーブのミスが多く、その度にクラスの子に励ましてもらっていました。そして、試合本番でサーブが入った時は、クラスの子たちが自分のことのように喜んでくれて、すごく嬉しかったです。球技大会を通してクラスの仲を、より一層深めることができました。高校生活も残りわずかですが、より多くの思い出をつくっていききたいです。

Winter Concert

合唱選択

3年3組 矢野 愛光(知立南)

私は3年間、合唱を選択していました。最初の頃は、発声練習や歌うことに対して特に意識をせず、なんとなく取り組んでいました。ですが、続けていくうちに、発声練習でもどこに音を響かせるかによって声の響きが全く変わることや、歌うときに言葉の意味や強弱、子音などに気をつけて丁寧に歌うことで、ようやく一つの曲が完成することに気づき、合唱の素晴らしさを感じるようになりました。

3年間で童謡や合唱曲など、さまざまな曲を歌ってきました。中でも、毎年行われるウィンターコンサートでは、一つの曲を完成させるために、仲間と日々の練習を怠らず、先生からのアドバイスを受け、それをすぐに取り入れるなどして、本番に向けて努力してきました。

この3年間を通して、私は仲間と協力することの大切さや、合唱をすることの楽しさを学ぶことができました。この経験を大切に、今後の大学生活や社会生活でも活かしていきたいです。



オーケストラ選択

3年3組 矢吹 美郷(岡崎城北)

私は、こども教育芸術コースの選択科目で3年間オーケストラを選択していました。半分ほどが初心者で私自身も初心者でした。1年生の頃は音を鳴らして、音階を覚えるだけでも精一杯で、合奏をしても上手いことが多くとても大変だったのを覚えています。3年間の集大成であるウィンターコンサートでは、マイスタージンを演奏しました。毎週2時間しかない時間で一人ひとりに目立つ箇所がありました。難しい曲ですが合奏をした時にしっかりと曲になっていて人数の少ない私たちでも、最高の演奏ができたのではないかと感じました。この経験を卒業後も大切に、今後に生かしていきたいと思っています。



針供養

3年8組 久野 里奈(東山)

私はこれまで「針供養」という言葉を耳にしたことはありましたが、実際にどのような行事なのかについてはあまり詳しく知りませんでした。そのため、今回初めて針供養に参加し、驚きとともにいくつかの新しい発見をすることができました。まず、針供養が折れたり錆びたりして使えなくなった古い縫い針を労わり、その功績を称える行事であることを知りました。また、豆腐に針を刺すという行為には「最後は柔らかいところで休んでください」という意味が込められており、針を使っていた人々の優しさや思いやりを感じることができました。古くからの人々が針や道具を大切に、感謝の気持ちを持っていたことが伝わる儀式が今も続いていることに感謝を受けました。



この儀式が今後も続いていくことを願い、私たちが針や物に対する感謝の気持ちを忘れずに大切にしていきたいと思いました。



3年11組 森下 由麻(南陽)

私は初めて針供養という行事に参加をしました。この行事は、折れたり曲がってしまっ使用えなくなった針を豆腐に刺し、針に感謝をし、針仕事の上達や無事を祈るものです。裁縫において、針がなければ布を縫うことはできません。今まで何気なく使っていたものが大切な役割を担っていることを知り、今まで以上に大切に扱おうと思いました。

そして、針に感謝の気持ちを伝えられる良い経験になりました。また、裁縫の授業を通して、友人と一緒にものを作り上げる楽しさを学びました。とても繊細な作業で集中力のいる作業でしたが分からないところは助け合いながら自分なりの作品を作り上げることが出来ました。そして針は裁縫だけに限らず病院での治療や美容など様々な場面に使われており、身近なものだと感じました。今後針に触れる機会があったら感謝の気持ちを忘れず使いたいです。



弁論大会

最優秀賞

2年10組 加藤 希世良(六ツ美北)
「好きなことを好きと言う怖さ」

優秀賞

商業科2年1組 フェルナンデス アンジェラ ニコル(知立南)
「真似事」

優秀賞

2年9組 酒井 萌々子(竜北)
「変わるチャンス」

特別賞

2年5組 柴田 亜城(幡豆)
「ひとつの個性」



弁論大会を通して

私は弁論大会を通して、好きなことに対する自分の意思が明確になり、偽りのない自分を知ることができました。また言葉は相手に自分の気持ちや考えを知ってもらうためのものだと思っていましたが、言葉を口にすることで自分自身への後押しになるということにも気づかされました。

言葉はこれから先も生きていく上で必要不可欠なので、自分にとっても他者にとっても前向きになるような使い方をしていきたいと思います。

2年10組 加藤 希世良(六ツ美北)

クラス代表になって

商業科2年1組

フェルナンデス アンジェラ ニコル(知立南)

私は人前に立つことが苦手です。だから弁論大会のクラス代表に選ばれたときには不安しかなく、家で何度練習しても消えることはありませんでした。しかし、大会後に友達から「すごく良かったよ」「頑張ったね」など



褒めてもらえたことで、発表したことは誇りに変わりました。そして、他の人の発表から、思いもよらなかったメッセージや、努力、また不安に思う気持ちなどを知り、それが自分への励ましにもなり、とても貴重な場になりました。

生徒審査員となって

2年3組 森 愛姫花(篠目)

私は弁論大会の審査員をさせていただきました。14人の弁士それぞれが、自分が経験したことを自分の言葉で伝える、その弁論に心打たれました。自分の人生を文章にすること、伝わるような言葉にすることは全く簡単なことではありません。ですがそれを成し遂げて、勇気をもって皆の前で発表する姿に感動をもらいました。

他の人を知るだけでなく、その弁論を通して自分についても振り返る機会にもなった、良い機会となりました。



探究

● 1年生探究 ● 社会課題最前線“南三陸”から学ぶ

東日本大震災から13年経過した宮城県南三陸町は、約30%の人口減少、高齢化率38.5%の現状です。この割合は25年後の日本と同じです。

1年生は探究の時間で東北の復旧・復興から未来へ向かう現状を取り上げました。初めに改めて東日本大震災について講話していただき、次に、9分野で活躍する方を講師に招き、「東北から学ぶ講座」を、オンラインで実施しました。



復旧・復興から未来へ

1年8組 戸田 好香(安城西)

東日本大震災の時、私は幼かったので当時のことは覚えていませんでした。改めて震災を経験した話を聞くと自分の帰る家が無くなり、大勢いる方々が津波で流されたりすること、一瞬にして目の前の景色が変わってしまうのはとても辛いことだと思いました。

せっかく助かった人でも生きる気力を無くしてしまうことは心が痛みました。震災を受けた人のメンタルケアや今後に震災を伝えていくのが本当に大切だと思いました。

企画編集『“農業”を通して観光資源を企画する『パンダ農園』の新たな挑戦』

1年8組 増田 歩珠(篠目)

企画とはアイデアで編集とはアイデアを最大化していくから企画と編集はセットでこれからは私もそういう考え方にしていきたいと思います。観光は人を笑顔にするだけではなく、たくさんの企業と繋がり、社会を良い流れにしていって欲しいと思いました。観光業は様々な影響を受けやすいからこそ時代と共に変化してより良いものにしていく必要があると思いました。またコロナがあったから価値観が変わり、それに応じて時代は変化していく必要があると思いました。基礎と土台の企画と編集をしっかりして実践に移すことがとても大事だと思いました。じゃがいもは最初聞いたときはよく理解できなかったけれど、よく考えるとどんな時でもジャガイモを食べていてそれが普通だと思っていた自分があることに気づき、当たり前のことに感謝していきたく強く思いました。自分が50歳になるのはあまり想像ができませんけれど、幸せに暮らしていきたいから日々の積み重ねを大事にしていきたいです。今日で終わりではない、これからも続くので毎日感謝していきたいです。



復旧・復興から未来へ

1年4組 松野 桜奈(竜北)

災害からの復旧・復興にとても時間がかかり計画を立てて議会に承認してもらわないと復旧・復興に向けて進まないことを知りしました。いつもニュースでまだ復興してないんだと思っていただけれど、さまざまな人が対応、発想力で復興が進んでいることがわかりました。被災した人は避難所から仮設住宅、通常と避難していくけど人によって地域によってそこに住む時間が異なることに衝撃を受けました。

私が住む愛知でもいつ災害が起きるかわからないので日々の積み重ねや人とのつながり、主に教育、観光、農業、福祉を大切に生きていきたいと思います。



医療『過疎高齢化地域における地区防災のありかた』

1年9組 山崎 菜々子(篠目)



今回の講話で特に印象に残ったことは、過疎高齢化地域の地域福祉の方々たちの防災方法は自分が思っていた以上に細かいところまで対策されていたことです。地域福祉の方々の防災例で、人権に配慮した住人の個人情報の管理というものがあります。これを準備することで、被害があった時に医師にすぐにその人の情報を伝えることが出来、その人に合った医薬品を提供することができるそうで、これはすごく良い方法だと思いました。他にも、過去の東日本大震災の記録データをもとに、今後の起こりうる震災の対策を徹底しているものすごい行動力と対応力で驚きました。地域福祉の方々の活動は、国の政府の防災活動より優れていると思います。

講話の方が最後におっしゃっていた「自分の命を最優先に守る」という発言は、お話を聞いていたあたり高齢化などの他者を助けなきゃ、という考えだけだったわたしの心にとでも響きました。今後震災が起きたら、まずは落ち着いて自分の命、そして家族の命を優先して避難しようと思いました。

● 2年生探究 ● 社会課題に目を向け、自分たちが社会をちょっと良くする

2年文理総合コースでは安城市が推進する『あんじょうSDGs共創パートナー』制度を活用し、地域で活躍する方や企業、事業所と協働してきました。自分が将来目指す分野でグループを組み、取材し、その中で発見した課題をテーマに設定しました。課題解決に向けて話し合い、共創パートナー様から助言を受けながら解決策を提案しました。

「農業事業者の高齢化を少しでも食い止める」プロジェクト

2年3組 外山 清楓(北部) 2年3組 川村 菜子(大高)

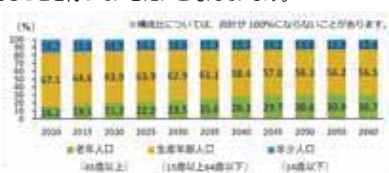
2年4組 服部 優利(鶴城) 2年4組 森 聖太(大府北)



私たちは「農業事業者の高齢化を少しでも食い止める」ことを目的にプロジェクトを考えました。安城市の現状を調査すると、2024年時点で65歳以上の農業事業者が22.0%であるのに対し、20年後には30%を超える予測が示されました。実際に現状を知るために取材を試みましたが、アポイントメント取得に苦労し、新しい取材先を探すことも大変でした。また、慣れない事業者の方々との活動も困難でした。しかし、取材を通じて農業をしている方々の生の声を聞くことで、農業を始めたきっかけや苦労を深く理解することができました。

取材後、若者が農業に興味を持つ方法について考えました。最初は農業体験を通じて興味を引こうとしたが、既存の農業体験やポスターの効果に限定的であることがわかりました。そこで、私たち高校生ならではのアイデアとして、バーチャル農業やゲームを使った農業への興味喚起を提案しました。これからも、持続可能な社会の実現に向けて積極的に関わり、自分たちができることを行っていきたいと考えています。

今回の活動を通じて、社会問題を解決するには一つの課題を解決すると新たな課題が発生することを学びました。そのため、少しずつ実行することの重要性を認識しました。環境に配慮できる社会人を目指していきたいと思っています。



安城市の年齢別農業事業者数



森林減少問題に取り組むプロジェクト ~被災地に緑を増やす~

2年6組 土工 陽誠(東) 2年6組 石川 煌記(鶴城)

2年6組 神谷 僚汰(高浜) 2年6組 榊原 凰峨(安城北)

私たちは、森林減少問題に関心を持ち、被災地に緑を増やすプロジェクトに取り組もうと考えました。安城市内の建設会社が進める「つよい未来をみんなでつくるアクション」の出発点が、このプロジェクトの始まりです。

この活動は、地球環境の変化や災害防止、地球温暖化の進行を遅らせるためにコンクリートで何が出来るかを追求するものです。特に、通常のコンクリートとは異なるポーラスコンクリートの特徴に注目しました。このコンクリートは透水性が高く、水たまりができないことが特長です。また、空隙内の水分の気化によって表面温度が抑えられ、さらに空隙に種子を充填することで緑化コンクリートとして利用できます。

そこで、私たちはコンクリートに植物の種を植え、被災地に送るプロジェクトを実行することを決定しました。プロジェクトを進めるために企業へ訪問し、プロジェクトの意義を説明したところ、コンクリート素材の提供を受けることができました。

次に、どの種子を植えるかという課題が出てきました。担任の先生に相談すると、先駆植物について教えていただきました。そこで各地域に合った植物を調査し、実際にコンクリート作りを行いました。

今回のプロジェクトを通じて、企業の方々と意見交換をすることで、プロジェクトの実現には困難が伴うことを実感しましたが、自分たちにもできると感じる事ができました。今後も引き続きこの活動を続け、多くの緑を増やすために努力していきたいと思っています。



生徒会活動報告

後期生徒会メンバー紹介



2024年度後期生徒会は「あい(愛・相・逢・暖・挨)」という方針のもと日々の活動を行っています。部活動の応援やペットボトルキャップ回収の取り組み、校則改善に向けた運動に力を入れています。また、街頭での愛知私学奨学資金財団・一億円募金活動や私学助成の拡充を求める署名活動、能登半島地震の義援金募金などを通して、社会に目を向けた活動も行っています。さらに、安城市の「平和都市宣言」(2025年8月発表予定)の文案について、市役所職員の方々と意見交換するなど、地域とのつながりも深く築いてきました。

このように後期生徒会では全校生徒とともにさまざまな活動を行っています。今後は、第37次創作ミュージカル、卒業フェスティバル、新入生歓迎会の成功に向けて取り組んでいきます。今後とも、生徒会活動へのご協力をよろしくお願いします。

会 長	2年	大谷 穰太郎	(朝 日)
副 会 長	2年	鈴木 直寛	(美 川)
書 記	1年	松川 莉子	(安 祥)
書 記	1年	ホダダニエラ ジョ	(六ッ美北)

会 計	2年	前田 祐杏	(富士松)
会 計	2年	上村 美咲	(安城北)
渉 外	1年	大木 桃桜	(安城南)
渉 外	2年	服部 優利	(鶴 城)

教科セミナー報告 Workshop Report

日本史 セミナー

商業科3年2組 平林 蘭惟(東浦)

私は今年初めて日本史セミナーに参加しました。奈良・京都に行ったのは小学生の修学旅行が最後だったので、楽しい気持ちでいっぱいでした。前もってどこに行くか話し合い準備をしていたので、当日はスムーズに見て回ることができ、小学生の頃とは違った視点でお城やお寺をみて、普段は味わえない新鮮な雰囲気を感じることができました。また、引率の先生や友人から分からないことを教えてもらったりしたことで、セミナーに行く前よりも歴史の知識が身についたように思います。一緒に行った友人と宇治や京都駅を観光したり、ホテルでお菓子パーティーをしたりと、楽しみながらもしっかり学ぶことができたこの日本史セミナーは、本当に良い経験になりました。一緒に行ってくれた友人、そしてセミナーに行かせてくれた両親には感謝の気持ちでいっぱいです。



部活動Report

2024年10月～2025年2月

陸上競技部

U18陸上競技大会で全国2位！

3年7組 木下 みなみ(平坂)

10月に三重県で行われたU18全国大会で砲丸投げで2位入賞できました。高校最後の全国大会はお世話になった方や応援して下さいの方に『感謝の投げをして恩返しする』という気持ちで試合に臨みました。試合当日は1本目から全国入賞を決定づける位置につけ全国2位を掴む事が出来ました。私はこの大会を迎えるまで、辛い事もありましたが、努力を続け沢山の方に支えて頂いて全国2位を掴む事が出来たのでとても嬉しく高校3年間の、1番思い出に残る試合になりました。安城学園で、熱心な顧問の先生に出会い、競い合える後輩にも出会う事が出来て安城学園で陸上競技が出来て良かったです。高校3年間は陸上の技術だけでなく礼儀や謙虚さなど人間性の面でも成長する事が出来ました。これからも感謝を忘れずに高い目標に向かって頑張ります。



国スポ少年B110mH大会新で全国3位！

1年11組 権田 颯志(翔南)

僕は、国民スポーツ大会でこの順位だったことがとても悔しいです。昨年、中学3年生の全国大会でも3位だったので、同世代と勝負できるこの大会は優勝できるチャンスだと考えていました。結果は接戦で、僕も大会新記録という記録を出せたものの、今後の大会プログラムには優勝者の名前しか残らないことから、優勝できなかったことに、とても悔いがありました。しかし、目標だった国民スポーツ大会に出場でき、大会新記録で入賞できたことは、良い経験になったので今後に繋げていきます。2025年度は広島でインターハイがあります。3年生がいる中でも、2年生の僕が8位入賞することを目標に頑張ります。



U16 陸上競技大会100mH 全国5位！

1年11組 矢嶋 紗由菜(桜山)

私自身3回目の全国大会でした。過去2回の苦い思い出を胸に、年齢別の今大会こそ順位を狙っていく気で練習に励みました。私の自己記録はスタートリストが出た時点では8番目で、決勝8人に残れるギリギリの位置でした。私は先生に「ランキング8番は絶対に超える」という目標を伝えました。全国大会の会場での練習では、周りの空気感に圧倒されて気持ちが落ちそうになる場面もありましたが、仲間の応援が力となり、思い切って予選から走ることができ、決勝に進出できました。目標に挙げていた5位以内と13秒台の両方を達成できたことは、本当に陸上部みんなの力だと思います。この経験を生かして、2年生の広島インターハイに出場して、いい成績を収めたいです。



先輩としてのプライドと 仲間の分も背負って... 東海新人大会400mH 6位

2年6組 清水 幸太郎(鶴城)



東海新人大会1日目、2年生は誰も入賞できず、1年生が入賞する姿がありました。過去の先輩方の活躍する姿がカッコよくて、僕もそうなりたいと思っていたのに悔しくて情けないと思い、2日目は「絶対に結果を残す」と、気持ちを切り変えました。その気持ちの中には、ケガで出場できない仲間の悔しさの分も頑張りたいと思って燃えていました。結果は目標タイムではなかったものの、自身初の東海大会のステージで6位入賞できたことは自信に繋がりました。来年度3年生になった東海高校総体では、この時、ケガで出場できなかった仲間と2人で、1位・2位を独占できるよう今後の練習も一緒に頑張っていきます。



愛知県高校駅伝5位で 東海大会出場・来年は全国大会へ

2年10組 加藤 希世良(六ツ美北)

私は1年生の頃はなかなか記録が伸びず、個人では1度も県大会に進むことができず、駅伝の補欠メンバーにもなれませんでした。そんな中どんどん伸びていく仲間の姿を見て『来年は必ず駅伝の選手になってやろう』と強く思い、この1年間自分を見直してきました。2年生になり今年度はトラックの5000mで愛知県選手権の標準記録を突破するなど、長い距離に自信をつけることができました。そうして、ひとつの目標であった駅伝の選手に選んでいただき、アンカーの5区を任せていただきました。しかし、チームの目標であった全国高校駅伝出場には届かず、悔いの残る結果となりました。私自身もアンカーとしてチームを勝利に導くことができず、新たな課題がたくさん見えた大会となりました。今大会では下級生の起用が多く、来年度は経験を積んだ2年生が残ります。2021年以来の全国高校駅伝出場へ向けて、新チームキャプテンとして私がチームを勝利へ導けるよう練習を重ねていきます。

女子サッカー一部

一緒にプレーした3年生へ

2年12組 近藤 夏凧(栄)

10月12日の愛知県高等学校女子サッカー選手権を最後に、3年生は引退となりました。おおよそ2年間一緒にプレーしてきた3年生には感謝がありません。私はプレーヤーの中でも割合の少ないIGKを選択し、先輩と二人で日々の練習に励んできました。トレーニングをしていく中で思い通りにいかなかった時にアドバイスをくださったり、私にあった練習メニューを考えて練習にも付き合ってくれました。また私たち後輩に対してさまざまな指導の中で、刺激を与えてくれました。サッカー以外の面でも気軽に話しかけてもらい、楽しく過ごせた時間が今となっては大切な思い出です。私たちが3年生にたくさん与えてもらったように、次は私たち2年生が全力で女子サッカー部を支えていきます。19期生の先輩方と一緒にプレーできたことを誇りに思います。良い報告が一つでも多く出来るようにチーム一丸となり日々の練習に励んでいきます。今まで本当にありがとうございました。



新人戦

2年5組 古賀 麻菜美(矢作北)

令和6年度愛知県高等学校新人体育大会女子サッカー競技に1月26日からエントリーしています。シードのため3回戦が初戦となり、とても緊張していました。でも自分達が練習してきたことを信じて試合に挑みました。前半、何度かゴールチャンスがあったものの決め切ることが出来ず、焦ってしまう時間帯もありました。それでも前半34分、コーナーキックから先制点を奪い切ることが出来て、本当にホッとしました。後半開始直後からは自分達のペースで試合運びが出来るようになり次々と得点を重ね、5-0の勝利を掴むことができました。自分自身もゴールを決めることが出来て嬉しかったです。まだ新人戦は続いています。2月2日の準々決勝は去年の新人戦で負けてしまった相手です。昨年度の悔しい思いを忘れず、先輩方の思いを噛み締めながら10人で戦い抜き、勝利の報告をします。



男子サッカー一部

命を学ぶプロジェクト

1年3組 北川 杏愛(依佐美)

1日目、大川小学校に行きました。大川小学校では、実際に震災で娘さんを亡くした、佐藤敏郎先生にお話をさせていただきました。そこで佐藤先生は「大川小学校は、辛くて悲しくて悲惨な場所ではなく、未来を拓く場所」とおっしゃっていました。私は、被災地を見て想像することは「悲しさ」や「悲惨さ」だと思っていました。しかし、被災する前は当たり前前に楽しかった明るい生活がそこにもあったのです。これからは、最後まで生きようとした時間と命、その生活を想像しようと思いました。2日目は、南三陸伊里前小学校に避難した人や児童がその後どう非難したのか、実際のルートを歩きました。歩いてみると坂道が多く、高齢者は一人では避難が難しいと感じました。避難場所を決めるだけでなく、実際に歩き、一番良いルートを考えることが大切だと思いました。このプロジェクトを通して、「自分の命を守る」ということを考えることが出来ました。この経験を家族や周りの大切な人を守るように活かしていきたいです。



第103回全国高校サッカー選手権ベスト32 高円宮U-18サッカーリーグ県リーグ昇格

3年4組 野村 康介(安城西)

僕たちの学年は、下級生の頃から試合に出ている選手が多く、先輩の最後の大会を経験した選手が多かったです。そのため、自分たちの代こそと意気込んで新チームをスタートさせることが出来ました。しかし、新人戦、インターハイと、なかなか結果を残すことが出来ず、チーム内でのモチベーションの低下や怪我人の続出など、苦しいチーム状況が続きました。そんな中でも、ミーティングを重ね、何とか立て直そうとしていく中で、高円宮U-18サッカーリーグで優勝し来期の県リーグ昇格を決め、少しずつチームの団結を高めていくことが出来ました。たくさんの困難を糧に、最後の夏の大会では県大会出場を決め、県大会での一勝を、チーム全員でもぎ取ることができました。この結果は、日々指導してくださる監督、コーチ、応援してくれる先生方、そして送迎や現地での応援など、僕たちがサッカーをしやすい環境を作ってくれた保護者のおかげです。3年間本当にありがとうございました。これからも男子サッカー部の応援をよろしくお願いします。

女子バスケットボール部

かけがえのない時間

3年6組 杉本 七海(平井)

昨年度、ウインターカップという全国の舞台を経験して、次は自分たちがという思いで仲間と切磋琢磨し合いながら日々の練習を積み重ねてきました。苦しいことや辛いことを乗り越えてきた仲間と共に全力で戦い抜きましたが、結果は思うようにいかず、ウインターカップの切符を掴むことができませんでした。でも、それ以上にこの3年間の日々が濃く、かけがえのない時間でした。こうして、この3年間私たちがバスケットボールを続けてこれたのは、いつもご指導してくださる先生方や、離れていても支えてくださった保護者の皆様、そしてたくさん応援してくれた学校のおかけです。本当にありがとうございました。これからも安城学園の応援をよろしくお願いします。



©U18 日清食品リーグ



男子バスケットボール部

悔しさをチームの力に変えて

3年11組 神谷 優太(明祥)



僕たちの学年は下級生から試合に出ている人が少なかったため、最初は苦しい日々が続きました。新人戦では県大会準々決勝で負けてしまい6位という結果で終わってしまいました。思いがけない負けに、勝負に絶対はないと痛感しました。それでもこの負けに向き合わず目を逸らしていたら負けた意味がないと思い、真摯に受け止め練習に励みました。3月に行われたカップ戦では簡単なミスが多く、チーム内で良くない雰囲気がありました。しかし3年生全員で集まり話し合ったことで「もう誰かのせいにするのはやめよう」と共通認識が持て、そこからチームが変わりました。その結果インターハイ予選では3位で東海大会出場、ウインターカップ予選では4位という結果を残すことができました。この結果は応援してくださった保護者やOB、先生方の指導があったから残せたものだと思います。本当にありがとうございました。これからも全国大会出場に向けて頑張る後輩達の応援をよろしくお願いします。

卓球部

自分たちらしく。

2年12組 水野 由南子(知立)

卓球部は、西三河大会で優勝、県大会で5位になり12月に愛知県豊橋市で開催された東海大会に出場することができました。結果は惜しくもリーグ敗退となりました。目標としていた全国大会出場には届きませんでしたが今までの練習の成果を感じることはできました。この悔しさを忘れず、学年別大会、最後のインターハイ予選で悔いの残らないように支えてくださる方々に感謝の心を持ち日々の練習に励んでいきます。これからも卓球部の応援をよろしくお願いします。



USA Regionals2025 全国大会出場



商業科2年2組 國村 美憂(福岡)

1月に参加したUSA Regionals 愛知大会で全国大会への出場権を獲得することができました。

曲や構成、振り付けを考えることは、難しく苦戦することもありましたが、全国大会出場という目標に向かい、日々練習に取り組んできました。1年生は初めての大会、2年生は体調不良が多く揃わない中での練習でしたが、本番ではそれぞれの力を発揮することができました。全チームが全国大会に出場することができ、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。

全国大会では、予選よりも完成度の高い作品を披露できるように、これからの練習も頑張っていこうと思います。

これからもダンス部の応援をよろしくお願いします。

合同自主公演を通して

2年9組 岩本 はな(高浜)

1月に愛知県のダンス部18校が安城に集まり、合同自主公演を行いました。他の高校のダンス部と1つの作品を作り上げる合同エンディングでは、他校との仲を深めることが出来ました。

自分たちのダンスとは違うジャンルの作品をたくさん見ることができて、ダンスの幅を広げることができました。また大会のステージに立つ時は"ライバル"という関係ですが、この合同自主公演では一緒にステージを作り上げる"仲間"として交流することが出来ました。

この貴重な機会です。学んだことを今後の練習に活かして、次の3月にある全国大会や夏の大会に向けて全員で頑張っていきます。これからもダンス部の応援をよろしくお願いします。



第7回定期演奏会開催 『感謝』の気持ちを込めて『和』の音色を奏でました。



3年4組 鳥居 和華(前林)

2月8日(土)に箏曲部第7回定期演奏会を開催し、多くの方楽しんでいただくことができました。今回の演奏会では今まで訪問させて頂いた安祥閣や老人ホームでの経験を活かせたと思います。特に曲と曲の移動時間を短縮することを意識でき成功に繋げることができたと感じました。「3学年揃って大人数だから出る深みも良かったです。楽しんでいる様子が見受けられる素晴らしい演奏会でした。」「美しい箏の音色に大変いやされました。トトロは私も歌いそうになりました。これからも頑張ってください。3年生のみなさん、お疲れ様でした。」などの感想をいただきました。技術指導の野津先生はじめ、たくさんの先生方、友人、家族に支えてもらい

3年間継続することができました。私はこの部活に入ったことで、楽しかった経験も辛かった経験もありましたが、今の大好きなメンバーに会えたこと。そして、より人と関わっていく楽しさを教えて頂きました。私たちの演奏で喜んでくださる方がいること。そして、拍手をいただけることが、私たちの成長の原動力だったと思います。私たち3年生はこれから社会人になる準備期間に入ります。この箏曲部での経験を活かし、今までお世話になった方に恩返しができるよう振舞っていききたいと思います。今までありがとうございました。



愛知県アンサンブルコンテスト愛知県教育委員会賞(第1位)受賞!!

3年2組 阿曾 愛紗(岡崎南)

1月25日(土)に瀧川工業雁宿ホールで行われた愛知県アンサンブルコンテストにおいて、打楽器六重奏、金管八重奏、クラリネット八重奏が金賞を受賞しました。そのうち打楽器六重奏が1位である愛知県教育委員会賞を受賞し、2月9日(日)に岐阜県可児市文化創造センターで行われる東海アンサンブルコンテストの愛知県代表として推薦して頂きました。活動を通して、ひとつの大きな目標のために仲間一人一人が信頼して努力することの難しさを感じつつも、全員で団結し意見を交わして最後まで追い求める事の大切さを学ぶことが出来ました。今後も笑顔溢れる仲間と共に最後の大会で嬉し涙を流せるよう全員で取り組んでいきます。応援よろしくお願いします。



美術部

地域に感謝！
招福祈願～大絵馬奉納～

2年4組 宮本 稜奈(一色) 2年4組 栗原 わかな(安城西)



美術部では今年もすぐお隣の南明治八幡社さんから新年初詣に合わせ奉納するための大絵馬制作をご依頼いただきました。180cmの大絵馬には已年らしく、幸運を運ぶ白蛇を中心に構成を考えて制作しました。制作期間は第四回定期試験後から冬休みの短期間ですが、バランスを考えて修正と加筆を繰り返しました。美術部の仲間たちとも協力して完成させ、神社の宮司さんや安城市のみなさんに変え喜んでもらうことが出来ました。私たちの美術部は常に各自好きなテーマで制作しており、このように依頼を受けることは新鮮でもあります。作業は大変でしたが自分たちの好きなことや特技を通じて地域貢献ができ、とてもよい機会となりました。

インターアクト
ボランティア部こころからの笑顔と
ありがとうに出会えた3年間

3年2組 成瀬 こころ(刈谷東)

私は3年弱に渡るボランティア活動を通じて、多くの貴重な経験を得ました。安城駅や名古屋市内での募金活動では、長時間立ち続け、声掛けすることが求められました。また、安城七夕まつりをはじめとした地域のお祭りでは、子ども達との触れ合いやお年寄りの方々へのサポートなど、元気な挨拶、気配りや会話を必要とする場面が多くありました。これらの活動を通して、様々な方々から感謝されたり、励ましの言葉を頂けたことが大きな喜びとなり、疲れを忘れるほどの達成感と充実感を得ることができました。インターアクトボランティア部は、単にボランティアを行うだけでなく、ポリオワクチンの必要性、児童虐待の問題、奨学金支援など、社会的課題を広く伝える役割も担っています。さまざまな活動に参加する中で、多くの人と出会い、他の部活動では得られなかった貴重な経験を積むことができました。

振り返ると、たくさんの「ありがとう」と温かい笑顔に支えられながら、人とつながる喜びや思いやりの大切さを学ぶことができ、心が満たされるかけがえのない時間だったと感じています。



クラブ大会試合結果一覧

陸上競技部

- 11月 愛知県高等学校駅伝競走大会 5位入賞
- 11月 第35回東海高等学校駅伝競走大会(岐阜) 12位
- 1月 皇后盃 第43回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会
愛知県チーム8位入賞 3年火山華(2区)
- 2月 第108回日本陸上競技選手権大会・室内競技
2025日本室内陸上競技大阪大会
3年 橋本清愛(刈谷東) U20の部女子60m 7.64秒
第6位入賞
1年 権田颯志(竜海) U18の部男子60mH(ハードル) 8.12秒
B決勝進出
1年 矢嶋紗由菜(桜山) U18の部女子60mH(ハードル) 8.82
B決勝進出

女子バスケットボール部

- 1月 愛知県高等学校新人体育大会西三河支部 優勝
- 2月 愛知県高等学校新人体育大会 4位

男子バスケットボール部

- 11月 第11回3x3 U18日本選手権中日本エリア大会 5位
- 12月 第11回 3x3 U18 日本選手権大会 出場
- 1月 愛知県高等学校新人体育大会西三河支部 優勝
- 2月 愛知県高等学校新人体育大会 ベスト8

卓球部

- 11月 第64回東海高等学校新人卓球大会(三重県)
3年 新實佳乃(桜井)・坂本一華(大塚)
2年 水野由南子(知立)・倉内心菜(平坂)・
岩瀬由奈(幸田南部)・小山菜捺美(吉良)・
榊原未菜(一色)・長谷川亜未(矢作北)・清水優花(西尾)
1年 石川葵(桜井)・新美菜(竜神)・伊藤瑠南(城北)
- 12月 東海高等学校新人体育大会卓球競技(豊橋市) 出場
- 2月 令和6年度西三河高等学校学年別卓球大会
1年女子 優勝 石川葵(桜井)
2位 新美菜(竜神)
3位 伊藤瑠南(城北)
3位 大谷桃香(西端)
2年女子 優勝 水野由南子(知立)
2位 倉内心菜(平坂)
3位 小山菜捺美(吉良)
3位 岩瀬由奈(幸田南部)

バドミントン部

- 11月 第77回 中部日本バドミントン選手権大会(富山県)
2年 西村咲良(高浜)・1年 藤井詩(大高)
女子ダブルス 出場
1年 藤井詩(大高) 女子シングルス 出場

ハンドボール部

- 11月 令和6年度愛知県高等学校新人体育大会西三河支部予選会 4位
- 12月 令和6年度愛知県新人体育大会 ベスト16
- 2月 令和6年度全三河高等学校ハンドボール1年生大会 優勝

バレーボール部

- 11月 第77回全日本バレーボール選手権大会 愛知県予選会
ベスト8
- 12月 令和6年度西三河高等学校バレーボール選手権大会 準優勝
- 1月 令和6年度愛知県高等学校新人体育大会西三河支部予選会
準優勝
- 2月 令和6年度愛知県高等学校新人体育大会 ベスト16

女子硬式テニス部

- 11月 令和6年度 テニス西三河選手権大会(団体の部) 4位

ダンス部

- 1月 USA Regionals 2025 愛知大会
Hip-Hop部門 MAGENTA・CYAN・AGDCが全国大会に進出

アーチェリー部

- 11月 令和6年度愛知県高等学校新人体育大会
2年 山田 陽彩(東山) 個人女子6位入賞
2年 山田 陽彩(東山)・2年 石原 沙幸(刈谷南)・
1年 三田 愛梨(形原) 団体総合1位
2年 岡田花歩(安祥)
1年 佐野公香(刈谷南)・山口莉采(一色)・
大見柚葵(矢作)・高井爽渚(竜北)
- 12月 第16回東海高等学校インドア・アーチェリー大会兼
Winter Cup2025 第17回
高等学校ネットワークアーチェリーインドア大会
2年 石原沙幸(刈谷南)・山田陽彩(東山)・
岡田花歩(安祥)
1年 三田愛梨(形原) 出場

女子サッカー部

- 2月 令和6年度愛知県高校新人体育大会 3位

吹奏楽部

- 11月 第37回全日本マーチングコンテスト(大阪府) 銀賞
- 1月 愛知県アンサンブルコンテスト西三河南地区大会
打楽器六重奏・金管八重奏A・クラリネット八重奏 県代表・金賞
サクソフォン四重奏・フルート四重奏・金管八重奏B・
クラリネット三重奏 金賞
- 1月 愛知県アンサンブルコンテスト
打楽器六重奏 愛知県教育委員会賞(1位)・東海代表
金管八重奏A・クラリネット八重奏 金賞
- 2月 中部日本個人重奏コンテスト
打楽器六重奏・金管八重奏 県代表・金賞
サクソフォン四重奏 金賞
- 2月 東海アンサンブルコンテスト(岐阜県) 打楽器六重奏
東海代表・金賞
- 3月 全日本アンサンブルコンテスト(福井県) 打楽器六重奏
出場予定

弦楽部

- 11月 日本学校合奏コンクールソロ部門 全国大会(千葉)
ヴィオラ個人 永井奏丞(城北)・大谷凜(牟呂) ともに優秀賞

放送部

- 11月 第37回愛知県高等学校総合文化祭放送部門県大会
岡田桃花(碧南東) アナウンス部門優秀賞・
全国高等学校総合文化祭に推薦

演劇部

- 12月 令和6年度中部日本高等学校演劇連盟愛知県支部
西三河第2地区合同発表会 優秀賞

美術部

- 1月 令和6年度高文連美術・工芸部門「西三河」支部展 出品